

【第3報】E23東名阪道 規制材による通行車への加害事故**【発生日時】** 2024年1月26日（金）19:40頃**【発生場所】** E23東名阪自動車道 上り線 40.3KP付近（長島IC～弥富IC）**【工事件名】** 2024年度 東名阪自動車道 ■■■管内維持修繕業務（規制補助作業）**【受注者名】** 中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株)**【概要】**

当該箇所にて、追越車線規制のテーパー部設置中に、安全太郎（i花子）用のコードリールを矢印板14枚目に荷降ろし、リールドラムを置いた状態で、コードを小走りで延長中にコードが絡まり、コードが突っ張った際に、ドラム土台が転倒した。転倒によりドラム部が自走し、走行車線側にはみ出した。

はみ出してくるドラムに一般通行車が気づき、避けようとして、追越規制側にハンドルを切ったが、避けきれずに左前方のバンパー等に接触し、一般車はそのまま現場を通過し、名古屋方面へ移動。

コードを引いていた規制員は、コードリールが走行帯への転がり、及び通行車両と接触したであろう事故音を確認し、メンテ名古屋当番者へ連絡。併せて、コードリールを規制内に回収。

上記の事故内容等の確認中（19:50頃）に、被害車両（第二当事者）より名古屋西料金所経由で、接触事故の訴えがあり、NEXCO当番に連絡（20:00頃）。

その後、高速警察隊による現場検証（規制班立会）を実施後、車線規制は中止撤去。

名古屋西料金所にて、高速隊、被害車両の運転手、及び職員立会で損傷状況が物損のみの被害であることを確認し、以降の連絡先等の交換を行い、当日は解散。

【被害状況】 人的被害：なし

物的被害：被害車両（一般公衆）の左前部バンパー、及び左サイドスポイラー

【時系列】その1

1/26（金）

- 19:00～ 追越車線規制を開始、予告標識設置後、テーパー部設置。
- 19:40頃 事故発生＜テーパー矢印板14枚目、リールドラムのコード延長時＞
- 19:50頃 メンテ当番者へ事故の第1報あり → 人身事故等の詳細確認を依頼
- 20:00頃 メンテ当番者へ事故詳細（人身無し）を含めた第2報あり。
上記、同時間帯でNEXCO桑名当番へも管制より名古屋西料金所経由で、被害車両より規制材による損傷の申し出があったと連絡あり。
- 20:10～ 高速隊による規制現場内の事故検分→終了後、規制中止、撤去開始
前後して、名古屋西料金所の被害車両へのお詫びと立会を依頼。
NEXCO了解の上で、下請の緊急当番に
名古屋西料金所へ行き、被害車両確認と運転手の方との話し合いを依頼
- 21:20頃 当番者名古屋西料金所着、
被害車両の写真、及び運転手氏名、今後の連絡先等を確認
- 22:00頃 ■■■HSCにて、規制責任者、従事者、及び下請当番が帰着
事故報告【第2報】用の最低限の聞き取りを実施し、23:00頃解散

【第3報】E23東名阪道 規制材による通行車への加害事故

【時系列】その2

1/29 (月)

- 10:00～ 緊急安全大会を実施
20:00
- ・事故状況の再確認（事象を明確に）
 - ・事故検証（状況再現、及び原因の掘り下げ）
 - ・小集団活動による今後の対策を議論

【報道等】なし

【原因】

- ・一人でコードの引き出し作業を行った。（本体を誰も固定していなかった）
- ・コードがきれいに巻き取られておらず、コードが絡まり、コードリールが転倒して車線に転がった。
- ・規制帯を早く仕上げたい気持ちから、進行方向を向いて小走りでコードを引っ張ってしまった。
- ・コードリールが転がることを想定できなかった。危険性を誰も把握できなかった。（緊急安全大会で実証した際、転がることを確認した）

【対策】

- ・コードリールの引き出し・巻取り時は、必ず2名で実施する。
- ・コードリールを設置後、何らかの影響により転倒し転がる可能性があることからコード引き出し後は、横倒しにする。
- ・コードを引っ張る際は、慌てて走ったりせずゆっくりとした速度で行う。
- ・事業所に帰着後は、コードリールをまき直して、絡みが無い状態で保管する。

【今後検討する更なる安全対策】

- ・安全太郎（i花子）の位置を、標識車に近づけ、コードリールを使用しない環境にする。
- ・設置物（i花子・ジャンボコーン・注意灯など）設置物が非常に多いため、見直しをしていく。

※上記の意見は、NEXCO・高速隊との協議が必要なため、今後検討し改善を要望していく。

【航空写真】



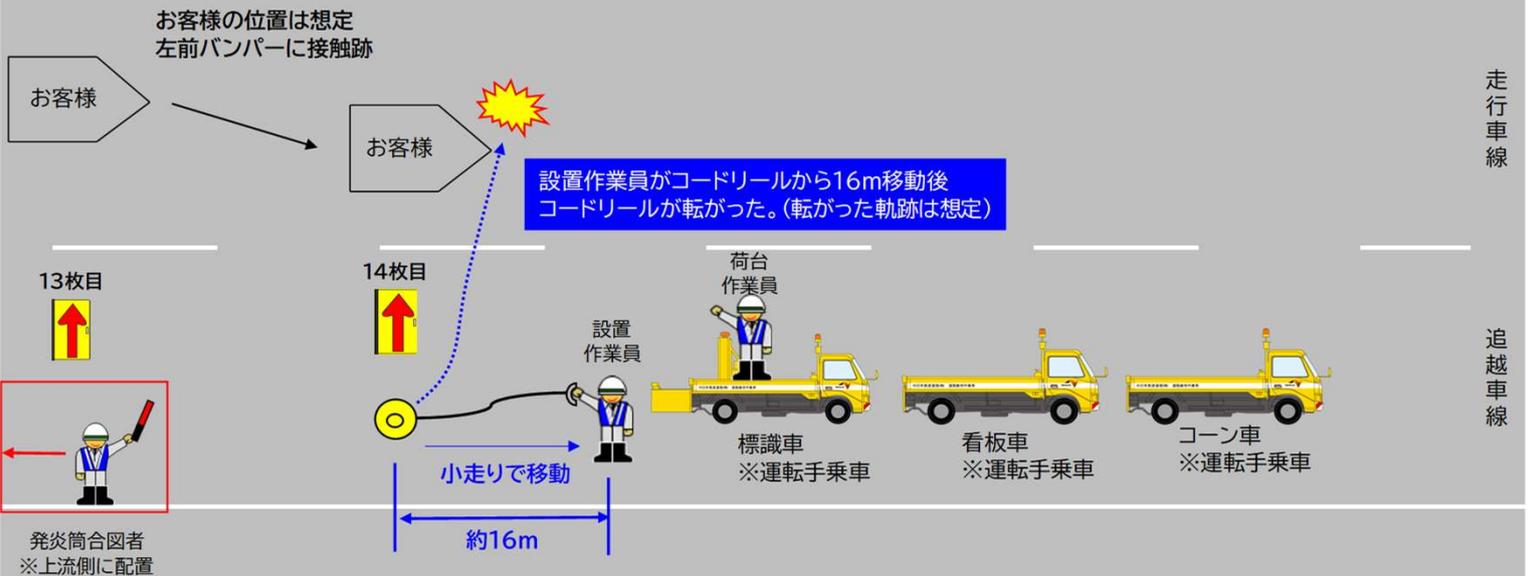
発生箇所
東名阪(上)KP40.3付近

名古屋方面→

←伊勢方面

【事故状況図】

■ 事故状況図



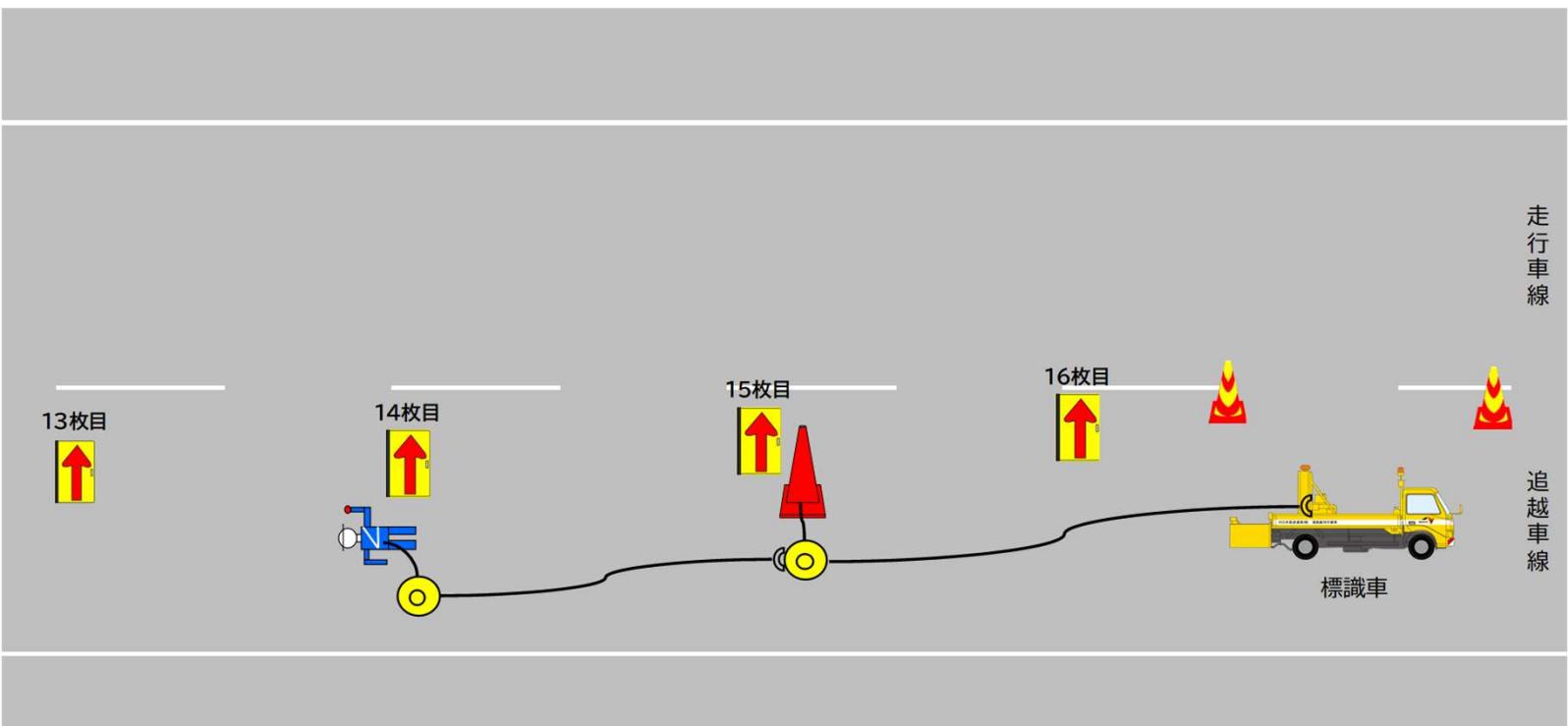
追越車線規制14枚目の矢印板を設置後、矢印板の横(中分側)にi花子給電用のコードリール(30巻)を設置し、設置作業員がコード部分を手に持ち15枚目の設置位置に小走り移動した。(i花子本体は、のちに設置予定であった) 約16mほど移動後、引っかけたような感触がありコードリール本体を目視したところ、コードリール本体が走行車線上へ転がっているのを、設置作業員が確認した。なお、車両との接触の瞬間は確認できず、接触した音が聞こえた。その後、コードリールを回収した。

【当日の配置】

- ① 発炎筒合図者
 - ② 設置作業員
 - ③ 標識車 荷台 上作業員
 - ④ 標識車 運転手
 - ⑤ 看板車 運転手
 - ⑥ コーン車 運転手
- 計6名(別途後尾警戒車2台4名配置)

【規制完成イメージ】

■規制完成イメージ



【原因と対策について（緊急安全大会議論）】

【原因】

- ・一人でコードの引き出し作業を行った。（本体を誰も固定していなかった）
- ・コードがきれいに巻き取られておらず、コードが絡まり、コードリールが転倒して車線に転がった。
- ・規制帯を早く仕上げたい気持ちから、小走りでコードを引っ張ってしまった。
- ・コードリールが転がることを想定できなかった。危険性を誰も把握できなかった。（緊急安全大会で実証した際、転がることを確認した）

【対策】

- ①コードリールの引き出し・巻取り時は、必ず2名で実施する。
コードを引っ張る際は、慌てて走ったりせずゆっくりとした速度で行う。
- ②コードリールを設置後、何らかの影響により転倒し転がる可能性があることから
コード引き出し後は、横倒しにする。

※対策の詳細は、次頁以降で説明する。

※対策内容については、作業手順書に明記します。

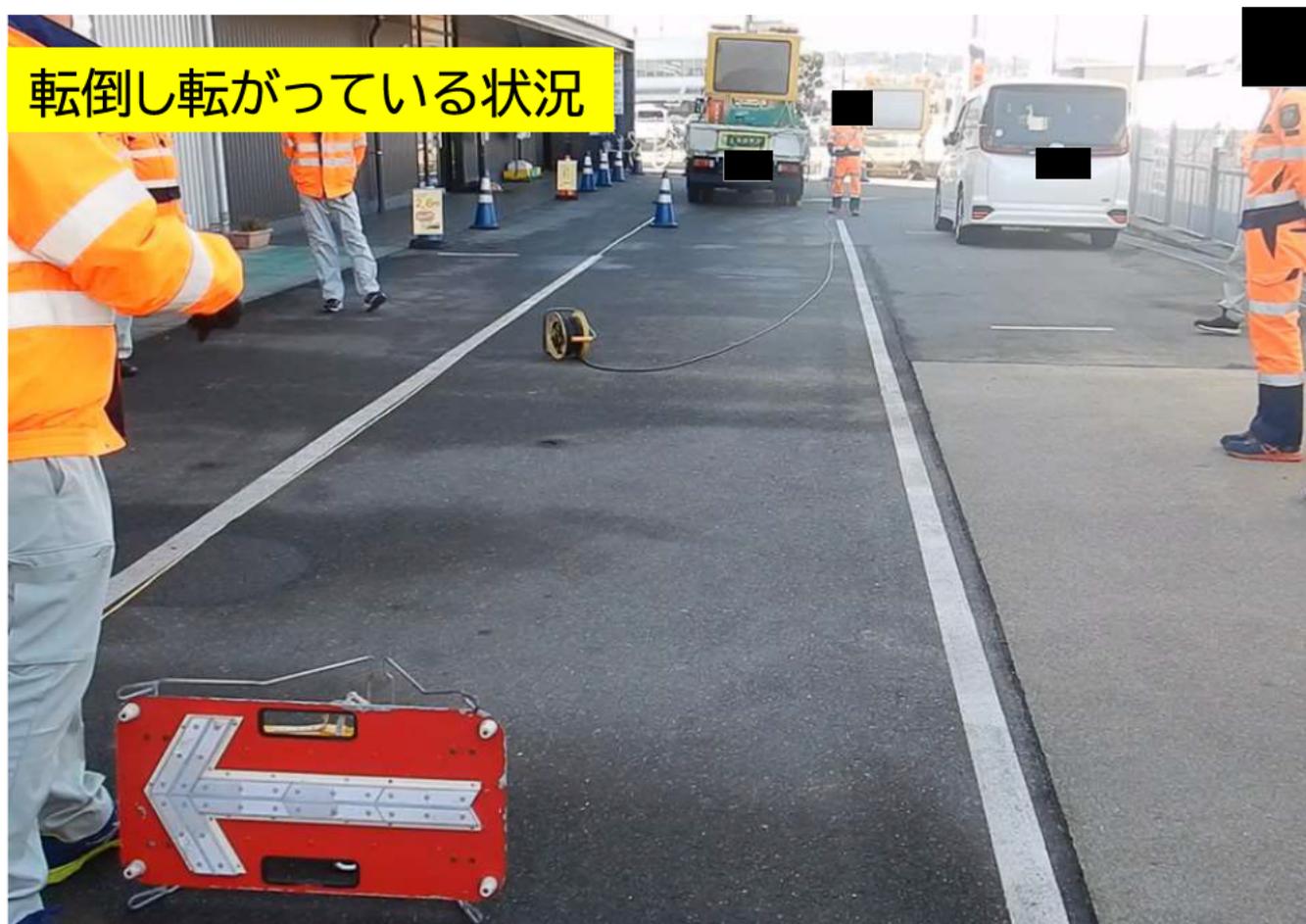
【今後検討する更なる安全対策】

- ・安全太郎（i花子）の位置を、標識車に近づけ、コードリールを使用しない環境にする。
- ・設置物（i花子・ジャンボコーン・注意灯など）設置物が非常に多いため、見直しをしていく。

※上記の意見は、NEXCO・高速隊との協議が必要なため、今後検討し改善を要望していく。

【コードリールの転がり検証】

緊急安全大会で、コードリールを複数回引張り転がった状況を確認できた。



【今後の対策 詳細①】

コードリールの引き出し・巻取り時は、必ず2名で実施する。
コードを引っ張る際は、慌てて走ったりせずゆっくりとした速度で行う。



【今後の対策 詳細②】

コードリールが設置後、何らかの影響により転倒し転がる可能性があることから
コード引き出し後は、横倒しにする。

